

2009年西日本F4シリーズ第5戦

吉田広樹
〈岡山国際サーキット〉

10月16日 フリー走行 DRY

前回のレースを優勝で追え、チャンピオンに向けても重要なレースとなるシリーズ第5戦岡山。第3戦の岡山では情けない結果に終わっただけに、今回のレースでは優勝のみを目指して挑みました。

前回のレースからは2ヶ月くらいのインターバルがあり、その間にチームの方とミーティングを重ねた結果、マシンに大幅な変更を施して岡山に入りました。まずはその変更点を確認すべく積極的に周回を重ねます。その結果前回よりもひどいアンダーステアが確認できましたが、翌日もフリー走行があった為この日は大きくマシンのセット変更を行い、セットアップの方向性を探りながら走りました。そんな中この日の走行は、一発のタイムを追い求めることよりも1レース終わった状態から更にもう1レース走ることを想定し、そこでのマシンバランスを考えて走りました。それも2週間後に、ここ岡山国際サーキットで行われる「F4日本一決定戦」を見込んでのことです。

この日本一決定戦は1セットのタイヤで予選一回とレースを2回戦わなければなりません。更に練習走行も30分が1本と、今までに比べると極端に走れる時間が少ないだけに今回のレースは日本一決定戦に向けてのデータ取りなども含めて重要なレースとなります。

10月17日 フリー走行 DRY

フリー走行2日目に向かえ、心配していた天候の崩れもなく順調にテストメニューをこなして行きます。徐々に程度のいいタイヤでアタックを行い、更に細かなセッティングをつめて行きます。そして2本目のセッションで予選へ向けたセットアップを行う為NEWタイヤでアタックを開始。この週末の自己ベストを更新し1'31, 847というタイムでセッショントップへ浮上。

そのまま続けてアタックを行い1'31秒後半では安定して走れることを確認し、もう一度ピットイン。ここから予選に向けたセットチェンジを行い0,4秒ほどタイムを縮めた結果このセッションもトップタイムで終え、明日の予選・決勝を迎えることとなりました。

10月18日 公式予選 DRY 予選2位 (18台中)

天候はいいものの秋らしく少し肌寒い中、予選・決勝日を迎えました。予選が始まり他車が次々とコースインする中、まずはピットで待機し周りのタイムを伺います。予選開始から5分ほどたったところでコースイン。路面温度もかなり低かったことからいつもより念入りにタイヤに熱を入れます。しっかりタイヤを温めながら他車との距離を調整し、計測2周目からアタックを開始。しかしここで、ブレーキング時に3速のギヤが自然にニュートラルになってしまうというトラブルに見舞われてしまいます。集中してアタックを行う為にも一旦ピットインして修復したかったのですが、残りの予選時間の都合上それも許されず、ギヤを片手で抑えながらのアタックとなってしまいました。それでもここまでマシンを作ってきて頂いたチームの為に今出来る最高の走りをしようと必死でアタックを続け、計測5周目に1'30,897というタイムを刻み2番手で公式予選を終えることとなりました。

決勝 DRY 2位 (18台中)

予選を終え午後に入り、気温・路面温度も下がり涼しげな中、決勝レースが行われました。予選後、予選で起きたトラブルを解決すべくチームの皆さんがしっかり対策を練ってくれました。そのことをフォーメーションラップで確認し、フロントタイヤを中心にタイヤを温めグリッドに着きます。

Team Naoki

with



<NO.1>

2009年西日本F4シリーズ第5戦

吉田広樹
〈岡山国際サーキット〉

そしてシグナルに集中。

シグナル・レッド、消灯、スタート！

まずまずのスタートを決め2番手で1コーナーへ。そのまましっかりトップの選手の後ろに付け、バックストレートエンドでのブレーキング勝負に持ち込みます。そこでトップに浮上し、そのまま後続を引き離すべくプッシュします。しかし2周目に入ったところで他の選手の接触から赤旗、レース中断となってしまいます。撤去作業が終わりSCスタートでのレース再開となります。自分はトップからのスタートなので、SC中もタイヤの温度を冷やさないようにしっかり温めタイミングを見計らってスタート！しかし最終コーナーで少しミスをしてしまいスリップにつかれ、1コーナーでポールスタートの選手にパスされてしまいます。その後、再びバックストレートエンドで相手に仕掛けるも抜くまでには至らず、0.5秒くらいのギャップでプレッシャーをかけ続けます。そんな中、またしても他車の接触でSCが導入、荒れたレース展開となりました。今度はトップからのスタートではなく2番手からなのでタイヤを温めつつも、トップの選手の動きに集中します。そして残り5周に入った時点でレース再開、再スタートとなりました。スタート後もトップから0.5～1秒以内の接近戦を続け、相手のミスを誘うようにプレッシャーをかけ続けるのですが、相手も中々ミスを犯しません。途中ファステストラップを刻みながら仕掛けるタイミングを見計らい、最終ラップのバックストレートでインに飛び込もうと仕掛けるのですが、抜くことは出来ず2位でレースを終えることとなりました。

今回のレースを迎えるにあたり、チームの方に少しでも速いマシンに仕上げようと色々な工夫を施していただきサーキット入りしました。そして実際に速いマシンに仕上がりと、優勝も見える位置まで来ていました。しかし自分のミスでそのチャンスを不意にしてしまい、チーム方やスポンサー様、そして応援してくださった方には、本当に申し訳なく思います。

今回のレースは2週間後に行われる「日本一決定戦」です。今回のミスも踏まえ、このレースでは今年の集大成として絶対に優勝しますので、引き続きご指導、ご支援宜しくお願い致します。

TeamNAOKI with LE PRIX SPORT

吉田 広樹

Team Naoki

with



<NO.2>